

○ 3か月予報(春の天気) と暖候期予報(6月～8月)

平成30年2月26日現在

この冬は、かなり寒さが厳しくなりました。平成29年12月が平年より -2.0°C 、平成30年1月 -0.6°C 、2月 -2.2°C (26日現在)で推移してきています。このような低温傾向は、平成20年以来10年ぶりのこととなります。

このような寒さは、ラニーニャ現象と北極振動が要因になっていますが、ラニーニャ現象は、今後春先まで続き、その後平年に戻る予想になっています。

温暖化傾向が進む中で、この冬の低温傾向が、今後の気温にどう影響するか注目されます。

なお、昨年と同じ時期は、平年よりやや高い気温で、暖冬傾向でした。

気象庁から2月22日に3か月予報、23日に暖候期予報が出されましたので、その長期予報について、解説します。

***表の見方は、総合農業試験場HP、農業気象情報⑩で紹介しています。**

1 3か月予報(2月22日発表)

気 温	20	40	40	降水量	30	30	40
3月	20	40	40	3月	20	30	50
4月	40	40	20	4月	40	40	20
5月	20	40	40	5月	30	40	30

○気温は、期間を通じて平年並みかやや高い傾向に。月別では3月、5月が平年並みかやや高く、4月が平年並みかやや低い。

○降水量は、期間を通じて平年並みかやや多い。月別では3月が多い、4月が平年並みかやや多い、5月は平年並み。

2 暖候期予報(2月23日発表 *平成30年6月から8月)

気 温	20	30	50	降水量	40	30	30
-----	----	----	----	-----	----	----	----

ラニーニャ現象が終息に向かう中、気温はやや高い傾向に。暑い夏が予想されます。また、降水量はこの期間、やや少ない傾向になる予報です。

3 全体的傾向

今回出された3か月予報(今年の春)では、これまでの低温傾向が解消し、3月以降の気温は平年並みかやや高い予報になっています。

これは、これまでの北からの寒気が南下しやすい傾向から、3月は寒気の南下があまりなく、南からの暖かい空気が入りやすいと予想しているためです。

4月は平年並みとなっているため寒暖の差が大きく、寒の戻り、遅霜の可能性がありますので注意してください。5月は、平年並みかやや高い予想になっていますので、高温傾向にも注意が必要です。

降水量は、3月は南から暖かい空気の影響を受けるため、やや多いとなっていますが、逆に4月は、やや少なくなっています。これは日本付近が移動性高気圧に覆われることが多くなり、降水が少ないと予想されるためです。また、5月は平年並みになっていますので、5月下旬には梅雨の走りとなりそうです。

このように、気温は平年並みかやや高い傾向、降水量も同じ傾向となっています。

さらに、暖候期予報(6月～8月)も気温がやや高く、降水量が平年並みかやや少ない予報となっていますので、厳しい夏が予想されます。

しかし、長期予報は、予報期間が長くなればなるほど、予報精度が落ちてきますので、長期予報では全体的な天気傾向を見て、短期予報でおよその天気変化とそれに伴う、気温、降水量、日照時間の予想を確認していくことが必要になります。

なお、九州南部の平年の梅雨入りは5月31日です。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二(気象予報士)